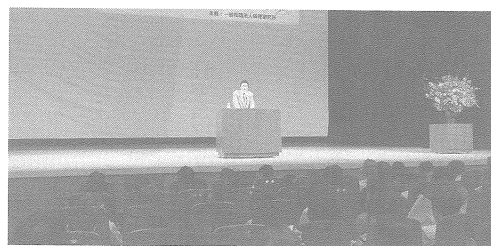


人としての基本の姿勢は、
家庭の躰で育もう

子供を健やかに育て、教育の成果をあげる方策とは――。「教育再生フォーラムin大阪」は、八月二日に開催された。徳江秀雄常任理事による進行で、八尾市長、教育関係者がパネルトークを行なった。



会場はNHK大阪ホール。二四一名が出席した。丸山敏秋理事長が基調講演を行なった。

徳江 子供の教育について、日頃からどんなことに取り組んでいますか？

田中(誠) 私は二年前、市政運営方針を作成する際、吉田松陰の次の言葉を引用しました。「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。ゆえに、夢なき者に成功なし」。常々「子供たちにいっぱい夢を与えてあげたい」と、思っていました。そこで、八尾市では、「子供夢実現プロジェクト」を推進しています。子供たちからロボットのアイデアを募集し、企業の技術力で実際にロボットを制作してもらったのです。子供たちは、「まさか自分の描いた夢のロボットが完成するなんて……」と、思ったでしょうね。これからも、子供たちの夢を叶える取り組みを続けていきたいと思っています。

〈後援〉大阪府教育委員会・大阪府PTA協議会・大阪市教育委員会・大阪市PTA協議会、各地教育委員会、PTA協議会など



田中誠太氏

田中(恵) 私は保育園の園長として、保護者に次のようにお伝えしています。「運動会や発表会が終わったら、子供たちとスキンシップを図り、〈自分は愛されている〉〈認めてられている〉という気持ちを満たしてあげてください」と。子供は自己肯定感を持つことによって、次の取り組みに進んで、喜んでチャレンジし、一回り大きく成長していきます。

徳江 三宅さんは、かつて中学校の校長という、多くの生徒と関わるポジションでした。

三宅 はい。不登校の生徒と面会すると、自己肯定感や、自己を尊ぶ感情がとても低いのが気になりました。親の期待感と現実の自分の姿にギャップがあって、日々の生活が萎縮いしこくしているように感じます。幼少期から様々な体験を積み重ねて、達成感を味わう経験を積んでいくことが大切ではないか、と。そうした中で、夢や目標に向かう姿勢が、自然と培われていくように思うのです。

徳江 小山さんは小学校の校長の立場からどう考えられますか？



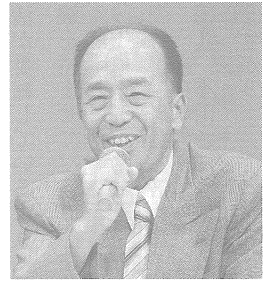
田中恵美氏

小山 本校では、すべての学年で、宿泊行事を実施しています。中でも小学四年生と五年生には、カナダで三週間のホームステイがあります。児童は親元から離れ、へ友達とこんなことしたい」と、楽しみにしてワクワクしている。一方で、わが子を心配そうに見つめ、時に涙をこぼしてしまうのが母親なのです。子供を愛するがゆえに、なかなか子供離れができない。親離れ、子供離れの時期を考え、どこでどんなふうに子供をひとり立ちさせていくかが大切だと思います。

「コミュニケーションを深めよう」

徳江 さて、この町に生まれて良かった。この町が好き」と子供たちが思うには、どうしたらよいでしょうか？

田中(誠) 私は「社会を明るくする運動」に取り組んでいます。学校の校門に立ち、通学してくる児童たちに「おはよう」と、声を掛けています。子供たちからすれば、へなんで市長がいるの？」という感じだと思いますが(笑)。挨拶を交わしてわかっ



三宅 泉氏

たのは、コミュニケーションの大切さでした。小学校で児童たちと話をする機会があります。三十分の持ち時間で「子供消費者教室」を開きましたら、「八尾で一番古い小学校はどこですか?」「市長の年収はなんぼですか?」と、ズバリ訊かれました(笑)。時には、そうしてフランクに話す機会も必要ではないか、と。時々ですが、町で児童たちから声をかけられます。小学生が近寄ってきて、「こんにちは。田中市長さんですよ」と。「この前は私たちの小学校に来ていただき、ありがとうございます」と、お礼を言われたこともあります。

徳江 コミュニケーションについてお話しただいたので、人とのきずな、つながりについてお話しただけですか?

小山 どのように学校の授業を作りあげていくかが、教育再生の重要なポイントだと認識しています。教師には、生徒と信頼関係を築き、生徒同士をつないでいく手腕も問われる。本校では、グループ、ペア学習の形態を取っ

挨拶がきちんとしてできる子供は、 健やかに育っていきます。

い。チャンスを与えたい」と発言したのは、自らの経験を踏まえ、行政の立場から何か提供できないかと感じたからなのです。

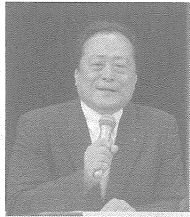
小山 礼儀に厳しかった親の姿勢が、今でも私の中にしっかりと根づいているように感じます。子供の生き方は、家庭で培われます。学校の教育だけで子供を養けよう、変えようとしても、なかなかできるものではありません。本学校では、共働きの家庭が増えていますので、おじいちゃん、おばあちゃんの果たす役割も重要です。

三宅 (母親は家庭の太陽であってほしい)と願っています。

振り返れば、私の母親も、

私の幼少の頃から家庭の雰囲気
を明るくしてくれました。

田中(恵) 保育園で、保護者に
お願いしていることが、二つあ



徳江 秀雄 常任理事

ています。自分の思いを伝えられる児童は多いのですが、人の話を聴くことがなかなかできない。相手の話をよく聴くのは、相手を意識すること。(自分とは違う考え方があるんだ)と気づくとき、自分の考えをまとめ、人とのつながりも深まっています。教師は、生徒とのコミュニケーションを図りながら授業を進めています。

徳江 田中恵美さんは、保育園の園長という立場で、何かをかけていることはありませんか?

田中(恵) 子育てについて気軽に相談できる相手が少なくなると、一人で悩みを抱え込むお母さんが増えてきました。なので、保育士と一緒にお母さんの話をよく聴いて、出来るかぎりサポートするように努めています。

徳江 つづいて、親と子供とのつながりについてお聞きしたいと思います。



小山 久子氏

田中(誠) 私は両親を尊敬しています。本当に自由に育てられ、いろいろな夢にチャレンジをさせてもらいました。先ほど「子供たちにいろんな経験をさせた

ります。一つ目が、挨拶です。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」という

挨拶は、礼儀としてきちっと教えてくだささい」と、伝えていきます。二つ目は、食事についてです。「お忙しいとは思いますが、できれば和食中心の薄味で、栄養のある温かいお料理を子供たちに食べさせてあげて、心も体もたっぷり愛情をかけてください」と、入園式のときにお父さん、お母さんにお話ししています。

徳江 皆さんから、子供たちを健やかに育てるための様々な取り組み、ご提案をいただきました。これからも、家庭と学校が一体となって、子供たちの教育に取り組んでまいりましょう。

「教育創生フォーラム」の日程 (名称が創生に変更)

11月9日(日) 佐賀市文化会館

11月30日(日) つくば国際フォーラム